

(様式第1号)

## 新規調査研究計画書(全体計画)

調査研究課題	茨城県における健康維持・増進に係る技術の整備・開発に関する基礎的研究 ブタインフルエンザウイルスの分子進化学的調査
計画期間	平成17年度～19年度 3年間
背景必要性	同様の研究は世界各地で行われているが、本国におけるトリ由来インフルエンザウイルスのブタにおける感染は認められていない。このことを鑑み、日本においてトリ由来ウイルスの感染、若しくは類似したウイルスが侵入した形跡を捕捉するのが本調査の目的である。 分子疫学的にトリウイルスの侵入を突き止めることで、日本においてもインフルエンザウイルスの種間伝播が起こっていることを証明でき、分子疫学上有効であると考えられる。
目的	日本においてトリ由来ウイルスの感染、若しくは類似したウイルスが侵入した形跡を捕捉するため
計画内容	1. 茨城県産のブタから得られる材料よりウイルス分離を試みる。 2. 各種手法を用い、ウイルスの性状・遺伝学的プロフィールについて調査を行う。 3. 本県在住者から得られた血清等を用い、血清疫学的調査を実施することでトリ由来ウイルスの侵入の証拠はないかを確認する。 4. 既存の株の情報と比較を行うことで、得られたウイルス株の分子進化学的解析を行う。 5. トリ由来、ヒト由来ウイルスとの分子進化学的距離を吟味し、両者との関連について調査する。
研究目標 (達成しようとする成果及びその活用方法)	目的が達成されれば、トリ由来ウイルスがブタに侵入した形跡を示すことが可能になると考えられる。ブタとヒトの間では頻繁にウイルスの交流が起きており、ブタで流行するウイルスの存在はヒトにおけるインフルエンザウイルス感染症を考える上で欠かせない。このことから、本調査の成果はインフルエンザウイルス感染症対策の一助(啓蒙等)になりうると考えられ、社会的意義は決して低くないと考えられる。
実施上の課題及び対応	インフルエンザウイルスの流行は通常冬期であるので、調査事業自体の開始が遅くなる可能性がある。また、長期の調査を行わないと結果が出にくいことが考えられるので、出来るだけ長期の調査期間を設定することが望ましい。
備考	本調査は、「茨城県における健康維持・増進に係る技術の整備・開発に関する基礎的研究」の研究項目「感染症における分子生物学的検討」に該当する。

(様式第2号)

平成 17 年度調査研究計画書 (年度別計画)

調査研究 課 題	茨城県における健康維持・増進に係る技術の整備・開発に関する基礎的研究 ブタインフルエンザウイルスの分子進化学的調査
目 的	同様の研究は世界各地で行われているが、本国におけるトリ由来インフルエンザウイルスのブタにおける感染は未だ認められていない。これを踏まえ、日本においてトリ由来ウイルスが侵入した形跡を捕捉するのが本調査の目的である。 分子疫学的にブタにおけるトリウイルスの侵入を突き止めることで、地理的に隔離された日本においてもインフルエンザウイルスの種間伝播が起きている可能性を示唆できる。
調査研究 内 容	平成 17 年度はウイルス分離 分離株の解析までの一連の操作が確立できる体制の整備をメインに考えている。具体的には検体の採取 培養細胞を用いたウイルス分離 各種血清学的検査 遺伝子解析までの操作までを通して行える環境を整備することが目的である。ただし、検体採取については3年間通して実施したいので月一回のペースで考えたいと思う。
備 考	

積算内訳の経費区分については、必要に応じて加除すること。